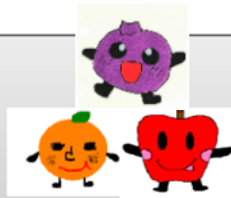


令和5年12月22日



さかもと



さわやかに かがやいて もくひょうもって ともにあゆもう

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/sakamoto/>

横浜市立坂本小学校 校長 荒井 正史

校長 荒井 正史

今年のニュースを振り返ると、大谷翔平選手の活躍など嬉しいニュースもあった反面、災害や戦争などの悲しいニュースもあった一年でした。来たる2024年は、平和で穏やかな一年になることを願っています。今年も坂本小学校の教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。来年も引き続き、よろしくお願いたします。

さて、12月は人権週間もあり、各学年で人権教室が行われました。本校で何度も演奏会を行ってくださっているピアニストの久保智さんによる「視覚障がい理解教室」、ろう特別支援学校の特別支援コーディネーターの先生による「聴覚障がい理解教室」、仏向地域ケアプラザの方々による「認知症理解教室」、星川スマイルベビーの方々による「助産師さんによる命の講座教室」などが行われました。

そのなかで6年生は、平和学習として、柴山昌子さんから次の内容のお話をいただきました。「テレビなどで戦争のニュースが流れ、家々ががれきの山になってしまったり、子どもたちが抱えられて病院に運ばれたりするのを見たことがあると思います。皆さんは、遠い国の話と思うかもしれませんが、横浜でもあのような空襲がありました。私は、戦争が激しくなって、親と別れ、集団疎開列車に乗って、静岡県のお寺に疎開をしました。本堂に布団を並べて寝ましたが、電気がなく、真っ暗で怖くて、帰りたくとあちこちで泣いていました。食事は、白いご飯ではなく、麦や芋が混ざっていて、いつもおなかがすいていて、貪って食べました。疎開先では勤労動員といって農家に手伝いに行きました。勤労動員はつらかったけれど、農家の方が、売れないようなお芋の端っこをくれて、おなかがすいていたので、それをもらうのが嬉しかったです。昭和20年になると、戦争はさらに激しくなり、アメリカの飛行機が富士山をめざして南から毎晩のように飛んできました。私は、それまで離れて暮らしていた家族の住む埼玉県熊谷市に再疎開をしました。8月15日に終戦を迎えましたが、前日の8月14日に熊谷市が爆撃を受けました。そのときは本当に怖かったです。空襲警報が鳴ると、防空壕に入って、空襲解除になるまでガタガタ震えていました。市内は焼野原でした。焼夷弾によって犠牲になった人が大勢いました。戦争が終わって、お父さんに寝巻を着ていいか、と聞いたことを覚えています。なぜなら、戦争中は、いつでも逃げることができるように寝るときも昼間の洋服のままだったからです。今でも、世界では戦争が起こっていて、なぜ戦争をやめないのかよく分かりません。私は子ども心にも戦争が終わってよかったなって実感しました。みなさんも戦争は絶対いけないということをいつまでも忘れないでほしいと思います。みなさんは絶対経験してはいけないことです。それだけは心にとめておいてほしいと思います。」

柴山さんのお話を聴き、私は祖母の話思い出しました。祖母はよく戦争のことを話してくれました。祖父が戦地に赴き、まだ幼かった私の母と叔父になんとか食べ物を食べさせたいとしていたときの話、空襲警報がなると生きている心地がしなかったという話、横浜大空襲のときに母と叔父を背負って逃げたときの話など、祖母の話聴き、私は平和であることを願うとともに、祖母や母が必死になって繋いでくれた自分の命を大切にしていきたいと実感しました。子どもたちの未来が、平和で、そしてみんながみんなのことを大切にしていける社会が築かれていくことを願います。